

宝幢寺池 (ほうどうじいけ)

位置図



諸元

貯水量	552 千m ³
満水面積	15.9 ha
集水面積	16.0 ha
受益面積	103 ha
堤高	5.6 m
堤長	2,260 m

宝幢寺池は丸亀平野の中央部（丸亀市郡家町）に位置し、天明3年（1783年）に築造されたものと伝えられています。近年では、1993年3月（平成5年）に県営ため池等整備事業で改修工事を行い、重ね三池（宝幢寺下池・宝幢寺上池・仁池）のお皿を模したユニークな形状を留めています。

宝幢寺は金倉寺古記録によれば、『9世紀後半に創建され、天文年間（1532～1554年）の戦国乱世に荒廃した。そして、天明3年、里正小笠原與衛門によって宝幢寺跡に溜池が築かれ、礎石は水没しよんじゅうこもんのきひらがわら ふくべんれんげものきまるがわらて今日に至る』と記され、この寺跡から出土した四重弧文軒平瓦、複弁蓮華文軒丸瓦などは奈良時代前期、白鳳時代の特徴を示すものであり、昭和46年8月27日、丸亀市教育委員会はその礎石と出土瓦を文化財に指定しています。

池中で一段高い方形の高まりに乗った形で、塔心礎石が下池池中に荒涼と位置しています。この塔心礎石を中心とした方形の土壇が宝幢寺跡とされる遺構であります。寺跡の位置する宝幢寺池は近世に築造され、貯水期には寺跡はほとんど水没し、僅かに礎石が見え隠れするくらいであります。減水期には遺構が浮かび上がります。（寺跡を水没させることは聖地化を意味しています。）ロマンは、現存する塔心礎石から三重塔・五重塔・七重塔へと膨らんで行きます。

最後に、池の中堤は、高松から善通寺へ向かう『遍路道』になっています。のどかな風景を体験し、知的好奇心を満たしませんか。一度、遍路道を歩いてみませんか。



宝幢寺池



礎石